

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名 三木市立三木中学校

1 学校教育目標

自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・よりよく生きようとする意思や能力を培う生徒の育成
- ・自他の命や人権を大切にす教育の推進
- ・確かな人権感覚を持ち、生徒理解に努める教員の育成
- ・規律と安らぎがあり、安全で安心して過ごせる学校づくり

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	・授業時数の確保 ・基礎学力の定着 ・生徒が主体的に学習に取り 組むための授業改善	・少人数指導、同室複数指導の実施 ・AIドリルを活用した反復学習 ・「自主学習ノート」の取り組み推進 ・探求型学習の推進	B	・ICT機器を有効に活用した授業の展開 ・基礎学力定着のためのAIドリルの活用 ・総合的な学習の時間を軸に探求型学習を展開 ・指導と評価の一体化のための研修促進
道徳・人権教育	・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・自尊感情や自己有用感の育成	・ローテーション道徳の実施 ・人権作文、ポスター制作や人権作 文発表会の取組 ・外部講師による人権教育の推進	B	・体験活動やボランティア活動を通じての所属 感、自尊感情の醸成 ・学校生活全般を通じた人権意識の啓発 ・学校生活における人権を大切にす言動
保健・安全	・感染症予防対策の推進 ・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実	・感染症まん延初期段階による学級 閉鎖等の予防処置 ・交通ルール・マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番(PTAと 連携)の実施 ・薬物乱用防止講演会の実施 ・避難訓練、1.17追悼集会の実施	B	・交通ルール、マナーの徹底 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・地域や関係機関と連携した防災訓練の実施

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・生徒、保護者、教職員による24項目にわたるアンケートを実施して評価項目の達成状況を考察できるように考えられている。また、経年比較も実施して計画的に進捗できているかも検証されて評価されている。自己評価の方法は適切である。

・重点目標の設定については、学校教育目標に基づき、「生徒」「教員」「学校全体」等の視点で具体的かつ、目標達成に価値のある基準で設定されており、適切である。

・評価項目(取組内容)に即した、取組(達成)の状況は評価できるものである。実際の評価については生徒・教員ともに自ら厳しく自己評価している傾向があるが、その意識が良いと思われる。ただし、生徒には、できていることを自ら適切に肯定して良いことも伝えてほしい。

・改善の方策は、目標達成を鑑みたくうで、妥当かつ有意義な内容である。

・保護者、生徒、教職員への学校評価アンケート、そして全教科、全領域での指導・観察に基づいた自己評価の方法は適切である。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>・基礎学力の定着のもとになる主体的な学びを育成するための方策として、新たなAIドリルの導入やICT機器を活用しての探求型の学習の推進などが着実に進められている。継続的な取組による基礎学力の定着を期待する。評価Bは妥当である。</p> <p>・タブレット端末等を活用し、生徒の協働的・探究的な学習を促しながら、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図ることができた学校全体の取り組みが評価できる。</p> <p>・生徒一人ひとりへの学習効果を高めるために、タブレット端末等やAIドリルをどのように授業に埋めこんでいくか、今後も先生方の不断の研究と修養に期待する。</p> <p>・これからも、子どもの実態に応じた有効的なICT機器の活用方法を取り入れてほしい。</p> <p>・道徳科や人権学習のアンケート結果からも学んだことを実生活で生かそうと意欲をもっている生徒が多い。また、生徒会活動を中心に生徒が主体になる学校生活が推進されていることから自己有用感を感じ、道徳性の涵養や人権感覚の高揚が図られていると感じる。評価Bは妥当である。</p> <p>・道徳を学校教育の要として位置づけ、道徳の授業はもちろん各教科や様々な体験活動を通して人権感覚の醸成に努めていることが評価できる。</p> <p>・来年度の制服変更等も機会とし、多様な価値観を認め合う、差別を決して許さないといった道徳授業により力を入れ、ダイバーシティ実現の一助に努めてほしい。</p> <p>・学びを教室の中でとどめて置かず、実践の場として体験活動やボランティア活動とつなげていくことは良い。</p> <p>・感染症への予防学習の継続的な取組とまん延を防止を行うための措置が実施されている。次年度の校外学習の実施に向けてマニュアルづくりの作成にも着手するなど、生徒が学びやすい学習環境の場づくりや学習内容の提供が進められている。また、アンケートの結果からも生徒が自ら意識して安全面や保健面に注意して学校生活を送ろうとしていることが伺える。評価Bは妥当である。</p> <p>・1月の能登地震の際には、三木中校区でも大きな揺れがあった。防災の意識や実際に使える知識を醸成するには、積み重ねが重要である。地域や地域や関係機関と連携した防災訓練を継続的に実施することを期待したい。</p> <p>・校区が広くなり、地域の危険個所の把握が難しくなっているが、今後も対応をお願いしたい。</p> <p>・コロナのみならず、インフルエンザなどの感染者増加により、参加者が少ない行事もあったように聞いている。学校は、早々の学級閉鎖等で対応をされていたようだが、手洗いうがい等の感染症対策の徹底に、ご尽力頂きたい。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の内面理解に基づく生徒指導 いじめや不登校の早期発見、早期対応 関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> アシスト教室の効果的な運営 生活アンケート、カウンセリングウィークの実施 生徒指導不登校対策委員会による情報の共有 関係機関(子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭環境を含んだ生徒理解の深化 発達障害、性的マイノリティ等に関する研修の充実 不登校対策に向け、新たな組織づくり 家庭や地域、専門機関と連携した生徒への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観や発達に課題のある生徒を理解して指導をしていこうとする方策が示されている。そのため外部の機関と連携して組織的に指導して対応されている。不登校生が減少傾向になるよう引き続いての取組をお願いしたい。評価Bは妥当である。 先生方が生徒たちと丁寧にコミュニケーションをとり、一人ひとりの内面理解に日々努められていることが、生徒たちの安心感と居場所感を確実に作りだしていることが評価できる。 コロナ禍を経て学校行事等が減少・縮小したことで、他者との関わりが希薄化し、困り感や疎外感を抱いている生徒・家庭も少なくない。そうした見えにくい場所へのアンテナを常に張り続けてほしい。 不登校の要因は多岐にわたる。いったん気持ちをリセットできる家庭や学校ではない別の場所で過ごすことがあってもいいと思う。関係機関、専門機関との連携をより拡充してほしい。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた進路指導 キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会の実施 進路相談の充実 私学合同説明会への参加促進 トライやる・ウィークの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動と連動したキャリアノートの活用促進 体験活動の充実 立春式の実施 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症などの影響などもあり、トライやるにおける事業所の確保が難しかった思うが、たくさんの事業所を確保されていることに教職員の皆様のご努力のお陰だと思った。体験活動を通して人とかかわり方や働く方々の思いを知ることにより様々なことを学べていると考える。評価Bは妥当である。 進路の多様化や学区の変更、学校統合がめまぐるしい昨今だが、進路説明会や進路相談等を通して、生徒に寄り添った進路指導が充実していることが評価できる。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催 学級経営の充実 生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による学校行事の運営 生徒会委員会活動の充実(管理職との座談会実施) ノー部活デー完全実施によるメリハリある部活動運営 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による学校づくりへの主体的な取組 生徒会を中心にした主体的な行事運営 進んで練習に参加しようとする部活動運営 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を促すための生徒会活動の充実化により、学校行事にも積極的に取り組んでいることがアンケート結果から分かる。また、「生徒会活動の充実」「学校行事の充実」のアンケート項目も前年度より高評価を得ている。A評価が妥当である。 生徒会を中心とした「自治」を重んじる行事運営・部活動運営により、生徒たちの主体性が育まれ、明るく元気な姿を地域で見せてくれていることが評価できる。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実 家庭、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の特性を共通理解し効果的な支援に向けた研修を実施 個別の支援計画の作成 関係機関との連携の推進 特別支援教育コーディネーターを中心とした指導補助員との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒の共通理解 個人カルテの作成と共有 特別支援教育に係る専門性の向上 特別支援教育指導補助員と連携した支援 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害など、発達に課題のある生徒が多くなる中、個別の支援計画を作成して、生徒の支援に当たっている取組を推進している。集団生活で他の生徒とコミュニケーションをとることができにくく、不登校になっている場合もあるのではないかと考える。医療機関や教育センターとの連携を強化して、支援にあたってほしい。先生方の空き時間がない中、さらなる人的配置が必要であると思うが、財政の問題もあるので難しいかもしれない。評価Bは妥当である。 特別支援においては、すべての生徒がそれぞれ何らかのニーズをもっているという前提のうえ、日々の授業や学校生活のなかで生徒の特性理解・個別の指導計画等ていねいな取り組みが実施されていることが評価できる。 中学生という多感な時期にこそ、友達のさまざまな個性(特性)を受入れ、認め合い、尊重し合うという意識を醸成できるよう、今後も地道な支援をお願いしたい。 これからも益々必要となる分野だと思う。子どものニーズに合った支援ができるよう、人員確保をお願いします。 特別な支援を必要とする生徒たちが増えている中で、より良い学校生活を送れるようにする為の人員が足りていないように思われるので増員を願いたい。
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導力の向上 生徒理解に基づく生徒指導の推進 意欲的な研修への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> 不断の授業改善による授業力向上 SC、SSWによる校内研修の実施 教育センター等の研修講座への積極的な参加 オンライン研修の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための情報提供 講師を招聘した校内研修の充実 小中一貫教育推進に係るカリキュラムの策定 OJTによる若手教師の育成、教育技術の継承 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修や校種別の指導研修、授業改善を行うなど、多忙化を極める中で職員全体で資質の向上を図っておられることに敬意を表す。学習に関するアンケート結果も昨年度より上がっていることから先生方の地道な取組が成果として表れていることが分かる。評価Bは妥当である。 校内研修、各種研修への自主的な参加を通して、授業改善に向けた不断の研究と修養を積み重ねる姿が高く評価できる。 校長が先頭にたってOJTを推進され、若手・中堅・ベテランが垣根なく、その資質・能力の向上に努めているところが高く評価できる。 不断の授業改善による「わかりやすい授業」が評価にもつながっている。昨年度よりは評価が上向いているが、「学校評価アンケート」の生徒理解の達成率改善に向けたOJTも期待する。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり 保護者、地域との連携による生徒の健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの積極的更新による情報発信 学級、学年、学校通信の発行 生徒会による地域行事への参加呼びかけ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域、家庭からの情報収集方法の検討 オープンスクールや行事の開催方法の工夫 地域行事運営への生徒の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や家庭の連携を強化しようとする改善方策を伺うことができた。オープンスクールの実施方法や地域行事への参加など、次年度に向けての学校運営が考えられていることが分かる。校区が広くなり、課題も出てくると思うが、引き続いての取組をお願いしたい。評価Bは妥当である。 生徒会の呼びかけで、生徒たちが三木市内の地域行事に積極的する姿は、実際に地域の活力向上に大変寄与しており、高く評価できる。 地域、家庭からの情報収集については、タブレット端末等の効果的な活用が重要になる一方で、学校とのリアルな双方向コミュニケーションも両輪として充実させてほしい。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備の充実 スクールバスの適切な運行 美化活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化設備や損傷箇所の修繕 PTA予算による備品等の購入 スクールバス運行会社との連携 教師と生徒と同行の清掃活動 生徒会活動による施設整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> 市教委と連携した施設設備への対応(老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕) 校地内の大型樹木の伐採 スクールバスの円滑な運営のための連絡体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な試行錯誤を通してスクールバス運用が軌道に乗り、星陽中校区の生徒たちが安心・安全に登校できていることが高く評価できる。 スクールバスの運行については、生徒・保護者からの要望に工夫し、多様な時間設定での対応に感謝している。